

ベラルーシ公開情報取りまとめ
(12月9日～12月15日)

2019年12月16日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、メドヴェージェフ露大統領と電話会談(12/10)

●ルマス首相、メドヴェージェフ露大統領と電話会談(12/14)

●ヴォイノフ・ベラルーシ国防省国際協力部長、北京を訪問し、上海協力機構(SCO)加盟国会議に出席。

大統領動静

●ベラルーシ国立医科大学訪問(12/13)

(12/12 大統領府公式ホームページ)

●グエン・ティ・キム・ガン・ベトナム国会議長と会談
(12/12)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・両国は、相互の歴史に基づいた素晴らしい関係を維持しており、それらは誇りであり、今後、発展の礎となる。

・ベトナムの国会指導者はベラルーシに定期訪問している。我々にとって常連客である。今回の訪問は、多くの分野における二国間協力を刺激を与えている。

(12/12 大統領府公式ホームページ)

●ルスラム・ミニハノフ・タタルスタン共和国大統領との会談(12/12)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・タタルスタン共和国とベラルーシの貿易高は2018年に13億ドル近くまで到達。今後維持、拡大していくには、革新的な投資協力を広げていく必要がある。

・二国間の技術協力については、MAZ, MTZ, Amkodor, Belaz が Rari Tatarstan と取り組んでいる。

・ベラルーシは、IT 産業やナノ・バイオテクノロジーが発展しており、ハイテクパークは中東欧で最大の IT 産業クラスターである。カザン IT パークや、その他研究センターとの協力の用意がある。

・石油化学分野は、両国貿易高の半分を占めており、非常に重要な協力分野である。

・環境保全の分野において、ロシアは廃棄物および

二次原料の処理方法について、議題に盛り込んでおり、この観点において、ベラルーシはゴミ処理工場の建設等についての協力の用意がある。プレスト州では同様の企業が存在する。

ルスラム・ミニハノフ氏の発言要旨は以下の通り。

・本日、Belaz を訪問した。450 トンの積載量を誇るダンプトラックを製造できる企業は世界でも少なく、とてもユニークである。

・ミンスクにあるモスクを訪問し、在ベラルーシのタタルスタン共同体の方々と交流した。ベラルーシには、約 7,000 ものタタル人が住んでいるが、ベラルーシの発展に満足している。

(12/12 大統領府公式ホームページ)

●メドヴェージェフ露首相と電話会談(12/10)

両者は、7 日にソチで開催された両国首脳会談の結果と統合問題に関する追加作業の内容、および新年までに諸問題に関するすり合わせを行う接触を続けることを確認した。同電話会談ののち、セルゲイエンコ大統領府長官、コチャノフ上院議員(前大統領府長官)と、協議を行い、ルカシェンコ大統領は「年末に、露大統領とだけではなく、露首相とも別途会談をもうける予定である。両国政府に関わる議題がある。それら特定のテーマは、「メ」露首相との会談を行いたいと考えている。「メ」露首相は、同意した。ミンスクに訪問できると答えた。両国家、とくに両国経済の機能における重要な問題を明確にするため、20 日以降も(当館注:20 日に Санктペテルブルクで両国首脳会談を開催予定)」露大統領と会談する必要が出てくるかもしれない。」と述べた。

(12/10 ベラパン通信)

外交

●ルマス首相、メドヴェージェフ露大統領と電話会談 (12/14)

両者は、統合問題に関連する二国間作業の進捗状況や、2020年の石油・ガス供給の優先課題について協議した。

(12/14 ベラパン通信)

●クラフチェンコ外務次官、スイスに訪問し、両国外務省協議を実施。

同協議では、在ベラルーシ・スイス大使館の実館化や政府高官の往来の増加など、二国間協力の活発化について議論された。

(12/13 ベラパン通信)

●ダブキユナス外務次官、バングラデシュに訪問し、両国外務省会議を実施。

同会議では、両国間政府要人の交流や農業、情報通信分野をはじめとした二国間協力について議論された。またベラルーシ産カリウムの安定供給や供給量拡大、農業機械、砂糖生産近代化、ベラルーシ産ジャガイモの輸出に関しても協議された。なお、両国外務省協議は、2000年より行われている。

(12/13 ベラパン通信)

●クラフチェンコ外務次官、第33回国際赤十字・赤新月会議に参加。

同会議においてクラフチェンコ氏は、ベラルーシ政府が赤十字・赤新月の掲げる人道理想を支持することを表明した。

(12/11 ベラパン通信)

●ベラルーシ、バルバドスと外交関係を確立

(12/11 ベラパン通信)

●ベラルーシ、バハマと外交関係を確立

(12/10 ベラパン通信)

●ベラルーシ・米国オープンスカイ協定署名。

(12/10 ベラパン通信)

経済

【対外経済】

●ポーランド投資家フォーラム開催。

両国の貿易・投資協力については以下の通り。

・2019年ベラルーシ・ポーランド貿易高、30億ドルを超える見込み。1～9月までの貿易高は24億ドル、うち、ポーランドからの輸入額は14億ドル、ベラルーシの輸出額は10億ドル。2018年両国間の貿易高は25億551百万ドルであり、増加傾向にある。

・ポーランドからベラルーシに対する投資額は、昨年4億45百万ドルを超えた。今年、ポーランド企業2社が、グロドノ州産業特区の入居企業に登録され、半年の投資額は2億ドルに達した。

(12/11 ベラパン通信)

●コムナルカ製菓工場、2019年の中国向け輸出量、昨年対比6倍増加。

コムナルカ製菓工場は、現在、22カ国に向けて輸出しており、輸出量で見ると、ロシア、ウクライナ、中国の順となる。2019年の中国向けの輸出量は、昨年対比6倍に増加している。中国市場において、ベラルーシ製菓は甘味が強すぎるとみられていたことから、コムナルカ製菓工場は中国市場向けに新製品を考案した。

(12/10 ベルタ通信)

【国内経済】

●2019年1～11月ベラルーシインフレ率、4.2%

(12/10 ベラパン通信)

軍事・治安

●ミンスク市内で、ロシアとの統合に反対するデモ発生(12/7～8)

12月7～8日にかけてミンスク市内中心部にてデモが発生。デモの主導者は、野党「ベラルーシ・キリスト民主

主義」の創設委員会共同議長のセヴェリニエツ氏。デモの参加者は両日合わせ 1000 名を超えた。

(12/7～8 ベラパン通信)

●ラフコフ国防大臣、ヴェッチャレリ・イタリア国防参謀総長と会談。

両者は、最近の国際安全保障関連の議題や二国間の軍事協力に関し協議した。

(12/5 ベラパン通信)

●ヴォイノフ・ベラルーシ国防省国際協力部長、北京を訪問し、上海協力機構(SCO)加盟国会議に出席。

会議では、2019年のSCO加盟国の国際軍事協力計画の進捗分析や2020年の各種行事に関し協議が行われた。

(12/9 ベラパン通信)

(了)